

平成 26 年 9 月 11 日

保護者 殿

日置市立土橋小学校
校長 松山 隆志

学校評価（1 学期）におけるご意見・ご要望等について（回答）

初秋の候、皆様にはお変わりなくお過ごしのこととお喜び申し上げます。

さて、お礼が遅くなりましたが、1 学期の学校評価へのご協力、誠にありがとうございました。ご意見等を参考に、改善すべきものは改善に努めてまいります。また、今回は、特認校の PR 及び挨拶に関わるご意見について、以下に回答させていただきます。

なお、評価結果については、学校便りやホームページ（以下、HP）に掲載します。また、ここではふれていないご意見等について、回答が必要な場合は、校長や教頭、あるいは担任まで直接ご連絡くださいますようお願いいたします。

1 特認校の PR について

「特認校は、PR 不足だと思う。」「特認生の保護者に土橋小に通わせての感想等の声を学校便りや P T A 新聞等で外部に発信してもよいのでは？」などのご意見を 3 件いただきました。

PR については、P T A の取組として、毎年、伊集院地域内の商店等でのポスターの掲示をしていただいています。学校では妙円寺大行進時等における沿道でのポスター掲示、地域 P T A での会合等における呼び掛けを行ってきています。また、作文や絵画、詩等の作品応募や新聞投稿、各種行事等のメディアへの情報発信等によって、子ども達の生き生きとした姿や土橋小の存在自体を知ってもらう活動の充実を図っています。さらに、他市町の特認校の取組みの情報を収集したり、昨年の 10 月には HP をリニューアルし、「特認校についてのご案内」のページも新規に設けるとともに、学校や子ども達の様子等を紹介することで、当校のことを少しでもご理解いただけるように努めたりしています（この 1 学期には M B C ラジオに出ささせていただく機会がありましたので、その中でも PR させていただきました。）。



また、後者のご意見のような「特認の子ども達の保護者の皆様の声」については、昨年 9 月、「土橋小に通わせてよかったと思うこと」と、「課題・負担と感じていること」の両方についてのアンケートにご協力いただきました。残念ながら学校便りや P T A 新聞等の広報紙は、特認対象校区の保護者には届かないため、HP の「特認校についてのご案内」のページに掲載しているところです。

これまでの状況としては、ポスターや HP で知ったとのことで毎年 2・3 件の問い合わせや学校参観があります。ただし、その割に増えていないのは、特例として認められる伊集院小や伊集院北小、妙円寺小校区以外からの問い合わせ等であったり、或いは当校に通わせたいとお考えになっても登下校の手段がネックになったりしていることが理由のようです。

以上を踏まえ、今後も P T A と連携しながら機会を捉えて広報したいと思いますので、アイデアがありましたら、またお寄せくだされば幸いです。ご意見、ありがとうございました。

2 挨拶について

「(前略) …せめて、校内で会ったり、地域行事等で会ったりする人達には挨拶ができればと願うことです。私達大人も子どもの手本となるべきですが。」とのご意見をいただきました。ご意見、ありがとうございます。

「来客及び保護者の方への挨拶」は、昨年度からの重点指導事項です。来客がある度に、そのことを子ども達に知らせて指導しており、自分から挨拶ができる子ども達が増えてきています。しかし、校内での保護者の方々への挨拶や地域行事等での挨拶はご指摘のとおりだと思います。



正門では毎朝ほとんどの子ども達が「立ち止まって、帽子を脱いで、お辞儀をしながら」丁寧な挨拶ができます。これは、「正門には毎朝、先生が立っているのだから、そこに来たら挨拶をする」という意識の働きが習慣化されているからだと思います。ドライバーが踏切に来たら一時停止することが習慣付いているのと同じではないかと思います。これはこれでとても素晴らしいことです。しかし、例えば、正門できちんとした挨拶ができる子どもでも、校内で出会った先生には挨拶ができないということもあります。

以前も書きましたが、「人に会ったら、挨拶をするのが礼儀である」ということは、頭では理解しています。けれども挨拶をしないのは、挨拶すべき対象としての「人」が目に入っていないか、「人」がいることに気付いても、その気付きが「(人に会ったから)挨拶をしなければ」という行動に結び付かないからだだと思います。子どもの場合、その結び付きを促すには数多くの経験が必要です。ですから、経験を数多く積ませることが大切です。正門での挨拶のように、毎朝必ず挨拶をすることが意識付けられる場所では、毎回繰り返し脳に一定の刺激がありますので、ある程度早く身に付きやすいのですが、その他の場所では、その刺激を受ける機会が少ないので、一朝一夕には身に付きにくいものです。地域行事等での挨拶は、その機会が少ないだけに、更に時間が必要だと思います。

HPでもお知らせしましたが、挨拶指導は夏季休業中に開催された小中合同研修会で話し合わせ、小中で共通に指導を徹底する共通実践事項としたところです。今後も挨拶指導に重点的に取り組み、時間を掛けて、繰り返し経験を積み重ねさせるとともに、「挨拶が当たり前の環境」をつくっていきたいと思います。周りが挨拶をする環境にいれば、必ずや挨拶をする子どもは増えるはずですが、ご意見にもあるように、身近に「率先して挨拶をする」教師や友達、そして保護者、地域の方々というよきモデルがいる、そんな環境づくりをしていく必要があります。今は、まだその過渡期と捉えています。できるようになったことを褒めながら、中・長期的なスパンで指導を進めたいと思います。

前回もお願いいたしましたが、保護者の皆様方におかれましても、来校された際は率先して子ども達に声を掛け、モデルとなって「人と会ったら挨拶をするのが当たり前」という環境づくりにご協力ください。その際、きちんと挨拶ができた子には、「気持ちのいい挨拶ができるね！」などと褒めていただいたり、後で職員にその子の名前を教えていただいたりしてくださるとありがたいです。そのことがその子の次の挨拶を生み出す源になります。ご協力、何卒よろしくお願いいたします。

ご意見等、誠にありがとうございました。今後とも、ご意見等がございましたら、いつでも結構ですので、お寄せくださいますようお願いいたします。